

～高齢者や障害者の観光を優しくサポート～

平成28年いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター研究課題 採択課題

課題名： ユニバーサルツーリズム安心システムの社会実装に関する研究

研究代表者：ソフトウェア情報学部 教授 阿部昭博

研究メンバー：狩野 徹（社会福祉学部）、工藤 彰（株ノーザンシステムサービス）

技術キーワード：観光応用、ウェアラブルデバイス/IoT、ユニバーサルデザイン

▼研究の概要（背景・目標）

＜背景＞ 高齢化の進展により、今後の観光需要の拡大においては、旅先での安心・安全面の確保がより一層重要になる。

＜目標＞ 旅行中の身体的状態の変化をウェアラブルデバイスを用いてモニタリングし、体調管理や安心面に資するシステムを開発する。

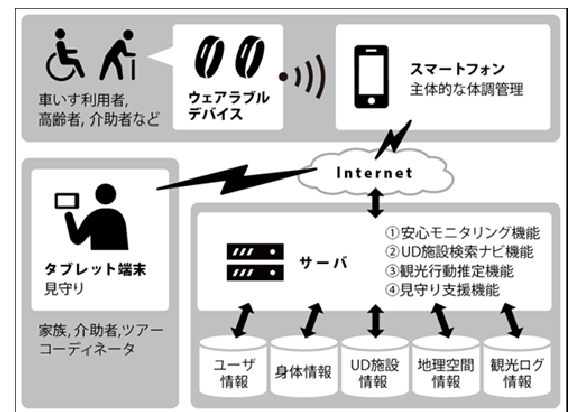
▼研究の内容（方法・経過）

＜方法＞ 社会実装を見据え、実際のツーリズム場面に即した4つの主要機能開発とフィールド検証をスパイラルに実施する。

①安心モニタリング機能 ②UD施設検索ナビ機能

③観光行動推定機能 ④見守り支援機能

＜評価実験＞ 岩手県平泉町等をフィールドとして、中高齢者、車椅子利用者といった当事者参加型の実験を繰り返し実施した。また旅行会社の協力を得て、サービスの在り方や社会的受容性について考察を試みた。



安心モニタリング機能



UD施設検索ナビ機能



観光行動推定と見守り支援機能

▼研究の成果（結論・考察）

＜結論＞ 機能面では個人差の考慮など課題は幾つかあるものの、想定ユーザにとっては当初狙った効果「主体的な体調管理」「旅先での不安解消」が十分期待できる見通しを得た。

＜成果＞ 特許出願中 特願2017-039647 「情報提供システム、情報提供方法、プログラム」

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

本研究では身体に装着したウェアラブルデバイスとスマートフォンを活用することで、バリアフリー対応施設に関する情報提供のみならず、利用者の主体的な体調管理や家族らによる遠隔での見守りを支援するシステムを当事者参加のもとスパイラルに開発した。

今後は、宿泊を伴う実際のツーリズム場面で利用可能なシステムの開発と実証実験を通じて、社会実装に向けた知見を蓄積していきたい。